

令和3年6月30日

令和3年度第3回世界農業遺産等専門家会議
静岡県わさび栽培地域における更なる保全・活用に向けた助言

- 1 本地域は、わさび栽培に関する伝統的な技術をそのまま活かして、高い収益が確保できている点が非常に評価できる。今後、研究者等とも連携し、伝統的な畳石式の農法が理に適っている理由を検証し、継承していく意義を解明することができれば、世界農業遺産の価値がより一層高まると考えられる。
- 2 わさびは収益性の高い作物で販売額は維持されているが、生産量が増えない点について、対策を考える必要がある。原因のひとつに、高齢化の問題が挙げられる。新規就農者向けの取組が行われていることは評価できるが、他地域からの新規就農者が少ない点については、さらなる改善が求められる。わさび田を新しく作ることは難しいため、既に使用していた農地を新規就農者が使うことになるが、比較的条件の悪い農地が割り当てられることも想定されるため、10年後、20年後を踏まえた政策的な支援や地元の体制整備など、新規就農者に対するさらなる配慮が必要である。
- 3 高齢化が進むと、畳石の改修作業等を生産者が単独で行うことが難しくなるので、地域内の連携を行うことが重要である。複数人でわさび田を共有し、順番に作付け、収益を配分する「合沢」の現代的意義を改めて評価し、今後の連携に活かすことも重要である。
- 4 観光客については、地域での受け入れ体制の確立のみならず、地域住民と共に清掃活動を行うなど、地域の応援人口を増やすことにつながる仕組みづくりも検討されたい。
- 5 新型コロナウイルスの感染拡大により、飲食店や試食販売などの従来の販路では販売促進が難しいという課題が生じており、良質なわさびを直接的に消費者へ届けるための新たな販路開拓等の取組を検討されたい。
- 6 わさびは、水温や降水量に影響を受けやすいため、長期的な目線で気候変動への対応を積極的に進める必要がある。例えば、高温に対応した品種開発や、従来の農法でどこまで気候変動に対応できるかについて、研究者等とも連携を取りながら引き続き検討を行っていただきたい。

7 わさび田は森林に近い場所で栽培されるため、森林が破壊されると直接的な影響を受けやすい。行政の森林担当者や森林所有者、森林組合とも連携し、わさび田との関連を考慮した森林の持続的な維持、保全の取組みを行っていただきたい。全国的にも林業と農業が連携している事例は非常に少ないため、本地域で事例を作り、発信されることを期待する。

(以上)